

令和 6 年 3 月 4 日 基地周辺対策特別委員会 議事録
10時00分 開会

○出席委員 (8 人)

委 員 長 山崎 年一

副委員長 中川 智之

委 員 中野 友博、山代 英資、岡 和明、藤川 和弘、西村 一啓、
日城 究、

議 長 北地 範久

副 議 長 寺岡 公章

○欠席委員 なし

○山崎委員長 定足数に達しておりますので、ただいまより会議を開きます。

開会に当たり、市長に御挨拶をいただきたいと思います。

市長。

○入山市長 基地周辺対策特別委員会、開催ありがとうございます。よろしくお願い申し上げます。

○山崎委員長 それでは、日程にしたがいまして進めさせていただきます。

初めに、日程 1、執行部報告事項についてを議題といたします。

執行部からの報告をお願いいたします。なお、時間が長くなるようでしたら、着座で御報告いただいても結構でございます。

どうぞ。

○田中危機管理課長 おはようございます。危機管理課長の田中でございます。

それでは、資料 1 から資料 4 により定例の報告をいたします。

まず、1 ページの資料 1、阿多田地区航空機騒音状況記録簿を御覧ください。

こちらは阿多田地区における日常の航空機の騒音状況について、阿多田島漁業協同組合の職員の方をお願いをいたしまして、御自身や住民の方が感じたことの実情等について記載をお願いしているもので、昨年11月から今年1月までの間のものとなっております。

11月は13件、12月が7件、1月は9件、合計で29件の記録が残されております。こちらの報告内容でございますが、毎月、防衛省中国四国防衛局岩国防衛事務所のほうに騒音苦情の実態として情報提供をするとともに、騒音対策への配慮と、それから、訓練等の情報提供についてお願いをしているところでございます。

続きまして、3 ページの資料 2 になります。左上に大きな字で阿多田島における d B 値測定表と大きく書いてございます。航空機騒音自動測定装置による測定結果、こちら御覧ください。

この資料は、中国四国防衛局から提供されているものですが、今回から様式が横長に変わっております。こちらは防衛省が阿多田島漁業協同組合の屋上に設置している騒音自動測定器で測定した航空機等が飛来した際の音を1日ごと、発生時間別に70デシベル

以上の記録をまとめたものになっております。90デシベル以上となったところが黄色いマーク表示となっておりますが、これを数えてみますと11月が79回、12月は76回、1月が94回、3カ月合計いたしますと249回となっております。前回の報告は6カ月分でしたけれども、8月から10月までの3カ月分で見ますと57回ですので、比較してみますと約4.4倍に増加しているということになるかと思います。

ちなみに、昨年度は8月から10月を見てみると49回に対し、11月から1月は176回ということで、これも3.6倍ぐらいに増加しておりますので、11月以降は昨年度も今年度も同様の傾向が見られるということになります。

昨年11月19日に空母ロナルド・レーガンが横須賀港に入港しまして、空母艦載機も岩国基地に帰還して以降、騒音の発生件数も増加しているようでございます。

なお、昨年度の11月から1月の合計、これが176回でございまして、今年度の先ほど申し上げた合計249回と比べますと、1.4倍に増加しているということになります。

続きまして、9ページを御覧ください。

9ページの資料3、岩国飛行場周辺の航空機騒音状況という資料になっております。こちらは防衛省が岩国航空基地の周辺市町25カ所に設置しております騒音測定器から計測された値をうるささ指数というものに変換して集計したもので、こちらは中国四国防衛局のホームページ上に掲載しているものでございます。9ページから11ページまでの表が、月別の平均値を掲載したもので、4月から1月までのものとなっております。12ページから20ページまでは、11月から1月までの毎日の計測結果を示した表となっております。

大竹市の測定地点は、No. 7の阿多田島漁業協同組合とNo. 9のサントピア大竹です。こちらの月別の平均値、こちらの表の上の段の数字L d e n値というものですが、こちらの平均で測定地点のうち居住地に該当するものを比較してみますと、4月と8月を除いてはNo. 7の阿多田島が毎月最も高い数値を示しているという結果になっております。

続いて、最後のページになりますが、21ページの資料4、岩国飛行場周辺の航空機騒音状況比較資料というのを御覧ください。縦長のグラフの表になったものです。

こちらは資料3のW値の月別平均値を折れ線グラフで表したものとなっております。滑走路の沖合移設前からの状況と比較するためW値によるグラフで表示しております。No. 7の阿多田島とNo. 3の岩国基地の北側にございます岩国市三笠町東中学校の数値の比較となっております。データの見方ですが、緑色の線が平成20年度で滑走路の沖合移設前、青色の線が平成28年度で沖合移設後、黄色の線が令和元年度、ピンク色の線が令和4年度で空母艦載機移転後の計測値の比較となっております。

令和5年度ですが、4月から1月までの値が黒い線で表示されております。今年度の毎月の数値は令和元年度と同じような動き方をしておりますけれども、5月と7月と9月で過去の最大値を記録しております。10月には一旦低下が見られるんですが、再び令和元年度並みの増加傾向となっているという状況でございます。

定例の報告については以上です。

○山崎委員長 ありがとうございます。

それでは、御報告いただきました件につきまして、よくわからない点などございました

ら、質疑を求めます。

質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○山崎委員長 委員長を交代します。

○中川副委員長 委員長を交代します。

山崎委員。

○山崎委員 先ほど報告いただきました資料の中で5ページから7ページであります。非常に大きな数字が出ております。こういった状況というのを恐らく空母が帰ってきて、航空機がみな岩国基地へ来ているという状況の中での訓練が行われたんだと思いますが、この訓練の状況がわかるようでしたら、実態、実際はどういう状況がなされたのか、例えば、硫黄島へ行って着艦離発着の訓練をなされたのかということが想像できるわけですが、ちょっと時間が非常に長く感じますので、そういった状況がわかるとれば1つよろしく願います。

○中川副委員長 危機管理課長。

○田中危機管理課長 特別な訓練をする場合、事前に中国四国防衛局を通じて情報提供がございますけれども、今回、確かに件数は多いですけれども、特に特別な訓練をするというような情報の提供は受けておりません。先ほどの説明にもありましたように毎年、艦載機の帰艦以降5月頃にCQと言うんですか、訓練、検定みたいのがありますけれども、それに向けて毎年件数が増えてくという傾向ございますので、そういった中での増加なのかなというふうには見ておりますが、もし特別な訓練があるようでしたら、また情報提供がありますし、議会のほうにも情報提供させていただこうと思っております。

以上です。

○中川副委員長 山崎委員。

○山崎委員 ありがとうございます。

それでこの報告事項というより、ちょっと違うんですが、実は2月27日に中国新聞が騒音区域の全域対象や、新しく調査をするということで、岩国基地の周辺にある騒音区域の全域で天井や壁などの工事を対象とするための調査を始めたという報道がありました。今回の調査、騒音区域の見直しの一環ということですが、住宅に併設された店舗、事務所も助成対象に加える方向で検討するということですが、私がお伺いしたいのは、阿多田島がこの調査区域に入っているのかどうかということがわかれば、お伺いしたいんです。阿多田島には店舗や、どう言いますか事務所というのは、あんまりないのかなとは思いますが、中にはあるかもわかりません。住宅に併設されたとなっておりますので若干あるのかなと思います。それでこの新しい騒音の調査が阿多田島の地域も適用されるのかどうかをお伺いしたいんですが、ちょっと通告なしで突然こんなことを聞いて不明な点もあろうかと思えます。わかる範囲でお願いをいたします。

○中川副委員長 危機管理課長。

○田中危機管理課長 騒音のコンターの見直しにつきましては、令和4年度、令和5年度で計2カ年でやるというふうに以前の委員会でも聞いていただいたことがあるんですけど

も、その後の進捗どうなのかっていうところ防衛のほうにも確認しておるんですが、まだ現状、進捗をお話しできる状態にないというふうに聞いております。阿多田島が実際、今やられてる調査の対象になってるかどうかという情報も得ておりませんので、もし得られましたら、またこの委員会で御報告をさせていただこうとは思いますが、また、速報等情報入りしましたら、同様に議会事務局のほうを通じて情報提供させていただこうとは思いますが、現状では分かっておりません。

以上です。

○山崎委員 ありがとうございます。

○中川副委員長 委員長を交代します。

○山崎委員長 他にございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○山崎委員長 ないようでございますので、以上で、日程1については終了といたします。

ここからは委員のみの協議となりますので、執行部の方は御退席いただいても結構かと思えます。ありがとうございました。

続きまして、日程2、その他についてを議題といたします。

それでは、前回に引き続き協議をしていく内容について、少し経過の報告をさせていただきたいと思います。

前回、皆様方から御意見をいただきまして、協議をさせていただきまして、当面、第1回といいましょうか、取っかかりとして防衛との勉強会を調整したらどうかという御意見がありましたので、委員長、副委員長と議長とで相談をいたしました結果、ぜひ、その方向で進めてみようということで、防衛のほうとの交渉を事務局長を通じて危機管理課にさせていただきました。防衛としましても新しい情報としては今のところないと、オスプレイについても、その時点ではでございますが、新しい動きということがないので当面、勉強会としては少し先にしたらどうかという御意見をいただきました。それで早速、勉強会が順延ということになりましたので、新しく皆様方から募集しております意見の中から、今後の取り組みについて何を取り上げていくかということをお本日、協議いただきたいと思います。

タブレットのほうに情報を提供いたしました。前回の検討内容ということで6項目ございます。中国四国防衛局を除きまして、できればこの中で選んでいただく。あるいは新たにこういったことを取り上げたらどうかという意見があっても、そのことの提案はよろしいかと思えますので、ぜひ、皆さんのこれからやっていきたいことについての御意見をお伺いします。

忌憚のない御意見をお願いいたします。

藤川委員。

○藤川委員 すいません、前回の検討内容から見させていただいてるんですけども、私個人的には騒音の実態調査。数字で今も執行部が発表していただいたデシベル、90デシベルとか言っても、実際90デシベルがどれぐらいの音なのかっていう、わからないと思うんですね。できればタイミングというのものもあるんでしょうけども、現地に行って、その騒

音の調査っていうのは個人的にはしてみたいかなと。それとその下の段にあります騒音工事の状況。補助金等を個人的に勉強すればわかることなんでしょうけども、もっと深く阿多田島に対しての防音工事のこの補助金等ちゃんとうまく活用されているのかっていうのも、ちょっと研究してみたいかなと思います。

以上です。

○山崎委員長 ありがとうございます。

ただいま藤川委員のほうから、騒音の実態調査、または防音工事の状況等について調査をしたかどうかという御意見がございました。

皆様方から他に御意見ございましたら、お願いをいたします。

日域委員。

○日域委員 今の藤川委員のお話にも私も賛成なんですけども、大竹市議会として市議会のこの基地周辺対策特別委員会のメンバーとして具体的にタッチしてみるというか、その必要性はあると思います。前にも言ったかもしれませんが、防衛省にですよね、住宅の防音でちょっと聞きたいんですけどって言ったら、彼が何と言うかって言ったら、終わりましたって。はあって言ったら、いやもう何年か、何年何月かで終わりましたからねって、それで終わりですからね。だから、何て言うのかな、味も素っ気もないですよ。そして、どういう仕組みかっていうのがまずわからないし、住民の方は多分、業者の方を通じて、その建築というかそういう工事業者の方がやってくれるからできてるんだと思いますけども、でも、そうすると本当、業者の方の都合で、ある意味振りまわされる可能性もありますから、一応のことは大竹市内の出来事ですから、議会としてもどういう形でされてるとかね。実際、音のこの数字も数字ですけども、昔、私このメンバーだったんかな、騒音計を持って行ったことがあって、そのときに賀屋さんが機械を持ってるのを私が横から撮った写真がスマートフォンの中にありますけども、音がしたって言ったら、だっと出ていって、ぱっとこうやるわけですけども、その体感というのはやっぱり大事ですよ。

以上です。

○山崎委員長 ありがとうございます。

今、騒音の実態調査について2件の賛成意見がございました。そのほか皆さんのほうでございましたら伺いしますが、どうでしょうか。

山代委員。

○山代委員 先ほどのお二方の御意見、大変参考になりまして、ぜひ、やってみたらどうかとは思いますが、それと即して執行部のほうから令和元年と今年の騒音のデータが似通ってるという発言もありました。ですから、この年度ごとに違いがあるのか、または周年で何年単位で似通ったデータになるのかと、そういった精査もできれば、住民のほうに周知という形でできるのではないので、ちょっとそこも調べてみるのは価値があるかなというふうに思います。

以上です。

○山崎委員長 山代委員からも賛同の御意見をいただいたところでございますが、追加をして経年で調べたらどうかという御提案がありました。

その他、皆さんからどうでしょうか。

岡委員。

○岡委員 前回の協議で、私が次のように言ったように思います、大まかですけれども、今の戦闘には戦闘攻撃も含めてですけれども、非常に上昇能力も高く、1秒間に200メートルや300メートルは場合によったら上昇できて、うまくすればコースも微妙に調整して阿多田島がうるさくないようにすることも十分可能ではないかというようなことを申したかと思います。

ただ、私もその後ちょっと勉強をしまして、日米地位協定を見ますと、これはそう簡単に変えてもらえるようなものではないということがはっきり分かりました。これは米軍としては、言わば権利というか、当然の権利として飛んでいるのであって、それをどうこうできない。特別な事故があったりとかそういうことでない限り、簡単に要求できるものではないということがよく分かりました。これは例えて言えば、幹線道路の沿線にある家としては、車がもっと緩く走ってくればいいのではないかと、時速30キロメートルぐらいで走ってくれば音は小さくなる。うちの音は小さくなる。あるいは向こうの田んぼのほうの中に道があるから、そっちを回り道してくれば、うちは騒音に悩まされることはない、振動に悩まされることはないというふうに思うかもしれませんが、この中で私を含め、あまりそういうふうに配慮をして別の道をわざわざ回ったり、あるいは人家があるからといって時速30キロメートルぐらいに落として走ったりは残念ながらしないわけです。ほとんどそのようなものだということは、この間、日米地位協定のこれまでの経緯、そして、現状とその文言を見てよく分かりましたので、あまりこれがやっぱり期待できなくて、私がこのあいだ言ったような方向でいくとちょっと間違った方向に行ってしまうかもしれないんで、ちょっと長くなりますが、それはちょっと申しておきたいと思います。

そして、もう1点ちょっと長くなって申し訳ありません。やはり前回、私は、これ平均すると1日当たり12回ぐらいだったんです、前回のデータでは、うるさい飛行は、今回、若干上がってるかもしれませんが、それならば、それほどでもないのではないかという思いもあるのはありましたが、私がこないだちょっと聞いたところ、やはり夜、恐らく9時、10時と飛ぶと、特に10時ぐらいに飛ぶと、翌朝早い人にとって、やはりこれは気になる、眠れない、寝入りばなを起こされたりとか、そういう問題点っていうのは確かにあるように思いますので、これも12回や13回だからいいじゃないかと簡単にも言えないということも、この間分かりましたので付け加えさせていただきます。

それを踏まえたうえでどうすればいいのか。例えば、この今、話が出ている防音工事をもっと強化するとかそういう可能性も考えていかなくってはならないのではないかと。そして、ただ騒音そのものについては、個人的には先ほど各委員おっしゃったように、もう少し私も実態、どのぐらいのうるささなのかということも引き続き知っていきたいと思っております。

ちょっと長くなって申し訳ありません。

○山崎委員長 ありがとうございます。

ただいま岡委員からは、日米地位協定の問題の指摘もございました。

その他ございませんか。

中野委員。

○中野委員 よろしくお願ひします。ほかの委員の皆様と重複する部分もあると思うんですが、自分の意見としてちょっと表明させていただきたいなと思うんですが、他市町でこういった講演会であったり、活動があるのかと調べたところ、なかなか見つかりにくいってということがわかっただけでも非常に勉強になったなというふうに思ったんですが、やっぱりこの6つ列举されてる中で、他市町との交流であったり、要望活動っていうところっていうのは、大竹市の現状を把握したうえでの次のステップになるのかなというところで、私自身も上から3番目と4番目、騒音の実態調査、防音工事の状況というところの、まず、大竹市の状況を知るっていうことがスタートなのかなというふうに思っておりますので、考え方の表明として意見させていただきました。よろしくお願ひします。

○山崎委員長 ありがとうございます。

皆様方から実態調査、防音工事の状況等について、調査をしたかどうかという御意見が集中しておるようでございますが、その他ございますか。

日域委員。

○日域委員 さっき岡委員が触れられた件ですけれども、そこも私はそうだと思うんですよ。それは米軍に来てもらってるわけですから。これは昔、岩国市の議員と話をしたときの話ですけれども、日本だって自衛隊がたまには海外行くじゃないですか。向こうの法律違反でしょっぴかれるっていう条件で行くはずがないじゃんかって。軍隊が来るときに、それは自分たちのルールであって、その国のルールに縛られないというのは当然だと、あり得ませんよって。少しヨーロッパの状況は違うんですけれども、ヨーロッパは最近ちょっとロシアがああいうふうになって、きな臭くなってますけれども、東側がソ連が崩壊して東欧側が、何ていうかな、かなり西へ流れたじゃないですか。あれを機にドイツなんかでも、だからアメリカとドイツのそういう地位協定的なものが随分変わったらしいですけれども、それまでは日本と一緒にすよ。

だから、ああいう緊張関係にあるところに軍隊を送るときに、その軍隊が自分たちの法律で守れないとなったら、絶対に行かないですから。

だから地位協定も北朝鮮とか、中国とか、ああいう日本の周りの危なっかしい連中がもうちょっとまともになったら変わるかもしれませんけれども、そう言うて中国新聞が昔、調査して結論書いたんですけれども、相変わらず自分たちの調査に何ていうかな、あんまり生かさずに何か騒音ばかり言うんですけれども、やっぱり今の状況を見たら、なかなかそう簡単に状況を変えることはできないけれども、ただ実態を知るためには、やっぱり地位協定の勉強も結構ですけれども、それから、防音は国内の問題ですから、そういう問題だとか、防音工事の問題だとか、そういう問題を具体的に勉強してみることは、すごくいいことだと思います。

○山崎委員長 ありがとうございます。

大体、意見も出尽くしたようでございますが、実は今、皆さんが提案いただいてる騒音の実態調査ですが、ここ最近だと思うんですが民間の市民団体と言いましょうか、団体が

阿多田島に入るようです。阿多田島で実際の調査をしたいということで、全戸を訪問して調査をなさるといような話を伺いました。これ確かな情報ではないんですけども、何かそんな調査をなさるとい状況のようでございます。

そういった意味においては、大竹市議会は何しとるんだとお叱りをいただくかも知れませんが、実は大竹市議会も何回か阿多田島には調査に行きました。調査には行ったけれども、阿多田島の人から見れば、来るなら来て、聞くのは聞くけども、何も取り上げて解決してくれないという阿多田島の皆さんから見たら何か力ない、議会として頼りないなという感じを持ってらっしゃるようでございます。そういったことを含めて私たちもよく理解をしたうえで、この作業にかからないと、今までの批判に拍車をかけるという可能性がある気がしますんで、少し慎重にやらないといけなかなと思っておるのが私が感じておる実態であります。

今、新しくこの基地周辺対策特別委員会にも、新しく議会に選出された委員が3名いらっしゃいますんで、そういった方々は、そういった騒音事態調査について参加されたことがないので、ぜひ、行って実際に経験をしてみたいという気持ちも十分あります。

そういった意味においては、いろいろ批判はあろうけれども、その批判を真に受け止めて、前へ進んでいかないといけなかなと思いますので、この騒音の実態調査と防音工事の状況を勇気を出して阿多田島にもう一度入って、調査をする必要があろうかと思うんですが、いかがでしょうか。

副委員長。

○中川副委員長 すいません、やっぱりこの基地対策の一番の問題は、騒音だと思うんですよ。防音、騒音、だから、そのことを一番やらなければならないと思います。その具体的な方策については、これから取り組むということで、今この場合は騒音にどういうふうに実態調査をするかということを決めて、その具体的なやり方をどうするかというのをこれから決めたらいいのではないかと思います、いかがでしょうか。

○山崎委員長 副委員長の御指摘がございましたので、騒音の実態調査をやると、それに加えて防音工事の実際の阿多田島の状況がどうなっとるんかということも一緒にやるということでもまとめてよろしいですか。

日域委員。

○日域委員 昔、海上自衛隊岩国航空基地のトップだったかな、あの人が我々があちらへお邪魔したときに言っていましたけど、どこそこの交差点のほうがよっぽどやかましいって言うわけですよ。現に私の知り合いでJRの線路のそばに長年住んでいる人がいて、やかましいじゃろうって言ったら、すぐ慣れるんやって。そうでなければ生活できるわけなからうがって言われました。現に私、阿多田島は何回か歩いたことがありますけども、やかましいでしょうって言ったら、いやって、全然やかましくないよって、そんなこと言う人もいるわけですよ。本当にやかましかったら住んでおれませんか。だから、ああいうものには、かなり個人差があるし、ほかとの比較についても、何デシベルとか、W値が何ぼってというのが、ほかの場所でいったらどうなのかですよ。比較対象は戦闘機というのかな、米軍機の騒音だけだったら比較できないじゃないですか。前と今がどうってというのは

わかりますよ。だけど、線路のそばの人はどうなんだとか、さっきの岡委員のことではないですけども、2号線のそばの家はどうなんだって。でも、2号線そばの家でも買う人は買いますからね。だから、ばか丁寧によれとは言いませんが、もう代表的なところの騒音をもう1回測ってみたい気はしますよね。

以上です。

○山崎委員長 ありがとうございます。

日域委員も騒音の実態調査をやるということについては賛成のようでございますので、一応、騒音の実態調査をやるということにしたいと思います。

問題なのは、いつやるか。この表を見てみましても、すごく飛行回数が多いときと、あまりないときとがあります。それをどう私たちが把握していくかということが1つ大きな問題だと思います。空母が帰ってきて艦載機がこっちにおるときでないといけない。おるときでもこうして1週間のうち4日ぐらいは全然あんまり騒音値として表れてないときがありますから、それをクリアしていかないといけない。

それから、例えば、阿多田島のどこでどうするのかという問題があります。その辺のところを副委員長と議長、副議長、私とで、ちょっと皆さんから意見があれば伺って進めていきたいと思うんですが、どうでしょうか。どういうふうな方法をしたらいいと思われませんか。

岡委員。

○岡委員 これはもう、もちろんですが、いつ飛ぶかというのはもちろん、これ軍事的な秘密もあるので、あらかじめ知ることはできないということで、よろしかったでしょうか。

○山崎委員長 ちょっと把握できにくいと思います。それで一応、空母が帰るときというのは、帰った日が、2、3日前には新聞に報道はあることがあるんですが、その辺のところをいろいろ調査をしてみる必要があると思います。その日にちがわかれば、大体これで見ると4日ぐらいはあんまり訓練されない日にちがあるようですので、それを外して運がよければということになるんだと思います。私たち今までも阿多田島に行くと、あんたらが来たときには、いっそ飛ばんよのと、もう少し、いいときに来いやと言うてよくお叱りをいただくんです。その辺のところをできるだけ外しがないように研究していくしかないと思うんですね。今、私が思いついたのは、阿多田島に海の家あたがありますよね。あそこへ行って、一定期間、あそこにおいて騒音の実態を聞くということができる可能性があるんじゃないかなと。

〔発言する者あり〕

○山崎委員長 いや、1日、朝行って、何時かの船で帰ってくるという格好になると思うんですが、その間、委員さん同士で交流をしたり、その間に住宅の防音工事の状況を手分けをして回ってみたいということを作業をしながら、拠点を海の家あたに置いておくと。そこで御飯を食べたりして、1日のうちの何時間かを阿多田島で過ごすことで、騒音の実態を肌で感じたいということでどうでしょうか。そういうことを私が今、思いついたぐらいで、すいません。

副委員長、どうぞ。

○中川副委員長 そう徹底的にやるということではないと思うんですよ。ただ90デシベルというのがどういう感じのものか何か全然わかんないということで、実際に90デシベルを体感すればいいのではないかなと思うんです。ですから、2グループぐらいに分けて、2回ぐらい阿多田島へグループで交代で行くとか。あるいは、それで駄目だったらもう1回行くとか。ただ1回でも90デシベルを経験できれば、こういううるささなんだ、これがどのくらい続くかというのは表を見ればわかるわけですから、それでいいのではないかなと思うんですが、どうでしょうか。

○山崎委員長 ただいま副委員長のほうから90デシベルという話がありましたが、測定器を持っていかなと、これが90デシベルだというのがわからんと思うんですが、測定器は議会事務局にあったんかいな。ないんですかね。

環境整備課にあるんですか。

〔発言する者あり〕

○山崎委員長 それはわからないけどね。

副委員長、どうぞ。

○中川副委員長 だから、この阿多田島のこの一覧が出ますよね。この日に行ったなというのが後でわかるしかないんじゃないかなと思うんですが。阿多田島で測定してる分って、今この阿多田島の人が感じているのと違いますよね、多少。だから、その辺も加味しながら、私たちが行ったときに、ああ、あそこで、ああいう騒音があったのは、いつの何時何分で、この測定値はどういうふうに出たというのをまずそれがわかれば、そっからいろんな対策もできるんじゃないかと。まだ私たちがわかんないわけですよ、阿多田島の人、感じることが。わかることは難しいかもわかりませんが、それを少しでも感じる事がまず、全然知らないというのが、ちょっといけないんじゃないかなということなんです、いかがですか。

○山崎委員長 具体的な提案を今いただきました。今、副委員長がおっしゃったような形で阿多田島に調査に行くということについては皆さん、同意をさせていただいてますので、進めていきたいと思いますが、よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○山崎委員長 それでは、ただいまの委員長、副委員長の提案がありましたことについての具体的内容については、議長、副議長と委員長、副委員長で進めさせ、検討させていただくということで皆さんに提案を改めてするということでいかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○山崎委員長 時期的には3月議会が終わって、4月、5月ぐらいで当面検討してみる。ただし、空母が帰っていないとできませんので、帰っておれば、その辺でということはどうですかね。6月議会までの間にできればやりたいと。あるいは、もう少し議会報告会との兼ね合いもあると思いますので、その辺もちょっと一任もらえますかね。

副議長、どうぞ。

○寺岡副議長 すいません、あくまでオブザーバーという立場であれなんです、先ほど執行部から資料の説明があったように、このたびの5月にこれまでで一番やかましい音がし

たという記録がつけましたので、5月あたりをめどに考えながら、ほかの資料で新しく国からいただいた資料で黄色く90デシベル以上のやつがなってるのがあるじゃないですか、これをずっと見ていくと、あくまで傾向としてですが、8時頃から飛び始めて、9時過ぎぐらいまでに飛んでれば、1日中飛んでるような傾向があるみたいなんですよ。なので、阿多田島の実際に住民の方とコミュニケーションを取りながら、8時から9時の間に飛んだ日に向こうに向かえば、昼頃までに1回はこれを見る限りでは90デシベル以上がありそうです。あるのが多いですから、そういったのも参考にしながら今後、委員長とかとも相談できたらなというふうに思うんですが、ほかの委員の皆さん方の気づきをいただきながら進められたらいいかなと思います。

以上です。

○山崎委員長 ありがとうございます。

今、副議長のほうから御提案をいただきました。御意見を参考にしながら進めてまいりたいと思います。

それでは、全体としましては騒音調査を実施すると、住宅防音工事の状況もできれば一緒にやりたい。それで5月頃をめどに検討させていただくということですが、議会報告会との兼ね合いで、ずれ込むかもしれないということを御了解いただいたうえで、本日の会議を収めたいと思いますがよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○山崎委員長 それでは、以上で、日程2については終了をいたします。

以上で、全ての日程を終了いたしましたので、基地周辺対策特別委員会を終了いたします。

どうもありがとうございました。

10時43分 閉会